|  |
| --- |
| 中小企業の動き（2019年7～9月期／業種別景気動向調査） |

「中小企業景況調査」（中小企業庁･独立行政法人中小企業基盤整備機構）によると、全国における2019年７～９月期の「中小企業の業況は、緩やかな改善基調の中にも一服感が見られる」と、前期の判断から引き下げられた。

全産業の業況判断ＤＩ（前期比季節調整値）は－16.6で、前期より1.1ポイント低下し、３期連続の低下となった（図１）。

業種別にみると、製造業は－17.2（前期より2.2ポイント減）となり、５期連続で低下した。非製造業は－16.4（前期より0.8ポイント減）と２期連続で低下した。リーマンショックからの回復期である2009年以降、全産業を上回って推移してきた製造業のＤＩが、今期は全産業を下回った。

非製造業を業種別にみると、「建設業」の回復基調が続く一方で、「卸売業」「小売業」「サービス業」のＤＩは低下した（図２）。

経営上の問題点は、建設業を除く業種で「需要の停滞」が上位３位内に入る課題であった（図３）。特に、製造業と卸売業では、「需要の停滞」の割合が突出して高く、前期よりも割合が高まった。一方、建設業では、「従業員の確保難」の割合が最も高く、前期よりも高まった。

これに対して、「原材料（材料価格・仕入価格）の上昇」は依然として、製造業、建設業、卸売業で課題の上位を占めるものの、その割合は低下した。

全産業の業況判断ＤＩの2019年10～12月期は、－17.8で、今期より1.2ポイント低下の見通しとなった。

図１　中小企業の業況判断ＤＩの推移



出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構「第157回中小企業景況調査（2019年7—9月期）」

（注）業況判断ＤＩは、「好転」企業割合－「悪化」企業割合。前期比季節調整値。

図２　非製造業の業種別の業況判断ＤＩの動き



出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構「第157回中小企業景況調査（2019年7—9月期）」

図３　経営上の問題点（各業種３位まで）の動き



出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構「第157回中小企業景況調査（2019年7-9月期）」